

創刊によせて



放送大学 学長
石 弘 光

このたび、「メディア教育研究」が、オンラインジャーナルとして発刊される。紙媒体の雑誌でなくオンラインで発刊されるのは、いかにもこのジャーナルの狙いにふさわしい。ジャーナルは、2009年4月に放送大学と統合されたメディア教育開発センター（NIME）の先生方を中心に編集されたものである。

旧NIMEの先生方は、統合後、ICT活用・遠隔教育センターに所属され、放送大学のスタッフに協力し生涯学習の支援にあたっておられる。遠隔教育による生涯学習の提供は、いまやeラーニング、インターネット、電子メールなどICT活用を抜きにしては語れない。世界の主要国の生涯学習の実態を見聞するにつけ、この感を一層深くする。私は学長として、ICT活用・遠隔教育センターに次の2つの方向で、放送大学の役割を協力・分担してもらいたいと考えている。

1つに、現に行っている放送大学のTV、ラジオを主体とした放送教材をICT技術の側面からより改善して欲しいと思う。この5月に中国の公開大学と学術交流協定を結び、中国の遠隔教育の方式を見てきたし、また9月にはソウルで日中韓共同セミナーが開催されたのを機に韓国国立公開大学の現状も視察してきた。卒直に云って、わが放送大学の遠隔教育の手法は、特に韓国と比較してかなり遅れていると痛感した。もう1つに、遠隔教育そのものの手法を学術的に研究し、生涯学習の成果を一層高めるようにして欲しい。この分野での研究は、イギリスをはじめ欧米各国の公開大学では専門家が多数おり、非常に進んでいる。“遠隔教育学”のような学問分野が、日本でももっと発展するべきだと思う。

本オンラインジャーナルは、このような研究そして教育の成果の発表、討論の場になって欲しいと願っている。そして放送大学および旧NIMEスタッフが、生涯学習の担い手としてさまざまな意味で真に一体化することは、絶対に必要である。とりわけ技術的サポートを放送大学側は期待している。

新しい形のこのオンラインジャーナルが、生涯学習、遠隔教育、メディア教育の知識をわれわれに共有させ、発展させる場としてこれから着実に成長を遂げることを願ってやまない。

2009年12月1日